

青樓

松

乃

内

完

特別

13

3633

56





中村梅松の角叙
 九名員名ハ五部書寫の強列
 府中の書所中ハ故手能久
 保の書所中ハ一日書寫の
 遊々於書を記したる女姓也



特

門へ 13
 3633
 巻 456

昭和二十二年六月八日
 宮川曼魚氏寄贈

自序 吳楚

十ノ雨亭の高陽公羽余ノ語
曰はくハ馬ノ鹿キナリト友何カレ
ハ此ノ厚紙ノ好ニハノ説ト教ク
是ハ中ノ紙紙ト潰スモ是何ノカキヤ
答曰クニ鳴呼カ擲サカデモあハレ

本二

大ニ云フモ西國ヨアハレヤ
曰末ハ不材ハ仍テ伐ラズト
然ハ鳳ハ不材ト野々尾有ヨ
材ハ不材トあり。中第一帖ト潰
ヤ。楮尾ト世四孔ノ吏易トカセ。
我々不材ト擲カズ。解トナラズ

乃^な兵^{へい}ハ^ハ厚^{あつ}カ^カリ^リ。係^こ白^{はく}賢^{けん}見^{けん}の^の又^{また}子^こ。
甲^あ冢^かと^と笑^{わら}繪^えハ^ハ武^ぶ門^{もん}中^{ちゆう}福^{ふく}来^き。
是^{こゝ}と^と函^{あつ}く^く。故^{ゆゑ}て^て亦^{また}々^々皇^{すう}少^{せう}あ^あら^らる。
是^{こゝ}に^に災^{わざ}有^あり^り。涿^{しゆ}縣^{けん}の^の街^{まち}ハ^ハ薜^ひと
織^おた^た玄^{げん}徳^{とく}あ^あ。東^{とう}地^ちの^の陶^{たう}街^{がい}ハ^ハ
至^{せい}征^{てい}と^と責^{せき}々^々大^{だい}統^{とう}あ^あ。予^よが^が如^{ごと}也^{なり}。

存三

愚^ぐ者^{しゃ}ハ^ハ縮^{すく}く^く。得^{とく}敷^{しき}徳^{とく}ハ^ハあり
ぬ^ぬを^をた^たの^の大^{だい}黒^{くろ}の^の楯^{たて}を^をて^てく^く。寧^{ねい}く
あ^ある^る。金^{きん}ハ^ハ邪^{じや}王^{わう}と^と擇^{たく}や^や校^{がう}取^とら^らん^ん。
あ^あく^く金^{きん}の^の土^{つち}を^をて^て出^いたる^る。延^{えん}喜^ぎ言^{げん}の^の今^{いま}ハ^ハ。
半^{はん}城^{じやう}と^と耕^{かう}ハ^ハ井^い紐^{じゆ}懐^{くわい}子^こ納^なる^る。婦^ふ家^か
突^つ六^{ろく}情^{じやう}の^の所^{しよ}業^{ぎやう}是^{こゝ}と^と伴^{ばん}く^く。大^{だい}都^と會^{かい}

おのりハ金一升ふ土一升擲さる
あれハ徳と澤るあれハ頓貨あれ
ハ定平のどれた敏給者ありさぬ
利口の邦家とそ後を事お志し
るゆへ鹿を誅する良ものなれと
むるハ下と後連田の徒あり

本に

平菟齋の好まふておまはふ
説と著者さる全好車の誠は其
るを借問者おまやアぬと索榮去
示時字和二歳壬戌子血陽日

十遍舎一九歳





青樓松之裡目錄

第一章

○虚きよは仍なほて実情じつじやうと媚めいを倡客しやうかくの自負じふり

第二章

○美戒びがいは追おて色男いろおとこと狩人かりん朋輩ともだちの志操しんせう

第三章

○愚ぐは還かへて意いのちのむねに倡婦しやうふの悔まご

上件

青樓松之裡

十偏舎一九著

第一章

遠とほくて近ちかきものハ男女おとこの中なかと少納言せうなごんも七しち云いむ。
十じゅうなる位くらいの浄土じやうどより、まき搦なりてはあはれ。
志しはるもの材まを虫むし初子はつこのりよの玉たまはへ。
と伸のびるの然しかるや、されど長門ながとが尻しりの終はつ。
廊らうは宿しゆく宿しゆくとや、林はやしの葉はの葉はも子こもや。
氏うぢ中なか花はなのちりしてあうらふかのの侍さむらいと雲うみ初はつ。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is enclosed in a rectangular border. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is dense and difficult to decipher without a key.

あつてはさういふ事でもなう。ちうとていふに、あれ
も、あつてはさういふ事でもなう。ちうとていふに、あれ
し、と、お、い、ち、が、**唐**き、の、い、も、い、け、が、あ、つ、て、い、ふ
し、の、あ、い、と、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
た、う、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
と、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
て、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、

と、竹田屋へとも申す。と、い、ふ、に、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
う、と、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
と、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、
あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、が、あ、つ、て、い、ふ、い、ち、

吉ドレいSびがよあんとよーうんかゝるんあつて
 おろろの吉ナうくおひのうくいんてあつて
 いまのいん吉イヤるんうんあつていんあつて
 いんあつていんあつていんあつていんあつて
 あんがアよくあるところ吉あまやアがれ吉
 吉あめくうもやうういんあつて吉あつていん
 おあんあんせんり吉女イエううういんあつて
 り。まういんあつていんあつていんあつて吉

ちぬうううコリヤアエうううう大を記ど吉あめく
 さんいんあつていんあつていんあつていんあつて
 よめあつていんあつていんあつていんあつて
 いんあつていんあつていんあつていんあつて
 松のいんあつていんあつていんあつていんあつて
 吉女あつていんあつていんあつていんあつて
 いんあつていんあつていんあつていんあつて
 吉あつていんあつていんあつていんあつて
 吉あつていんあつていんあつていんあつて

かゝるふすせ吉吉ぬらう吉く吉おの吉とさん吉お

このんやまきト男あまうちんをとよむささうつるけうう

をやひけるもの多あう落指おし海うみとと涙なみだとと

按あし産ま瘁うのの留とどののちちへへ悲かなびびああかか格かく子このの

おお泉いづみううくくちちあありりれれははとと破やぶくくししてて海うみぶぶ紙かみ

奏そうののおおへへかかははよよ記きああのの指さしととううとと換か

むむりりのの席せき下したのの足あしちちりり次つぎ中ちゆう子こ踏ふくくるるああのの

斬きののああうう。いざき海うみくくししてて一いち葉えつ一いち枝えだをを換か消しょう

名代の理なごころ飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

名代なごころととううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

してしてままううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

ししてしてままううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

ししてしてままううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

ししてしてままううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

ししてしてままううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

ししてしてままううちちのの美み子こ仙せんのの理り飲のむ茶ちや一いち枝えだのの美み子こ仙せんのの

ちーがひのさかたんーしものおげやたきふん。たか
まのこん作田ワタをうーりてちんしー
ひんさきーしーぐなせざんま入坂そのや
んていごおしやア移入たうてきちのちひ
のころが。あうーのこごうよ唐そぬごう
ねーもひんしーかお出たんまものさちうーや
そひのあこもあうもものこざんまをぬ
はゆもあんまよ。いんしーもあうせんか。

らうやどあんま坂こごう格をりも
あうごうぬごうでさうまひゆが。あつる
まのこなめうニそれきだのこぞあや
おげ移入のころころ。あうそよもおん
ど。作田ワタのまうちが。そよてんはよん移入
う。ちやをとうううよトてぬぐんた
いんま唐そんるトとまあんーちやアは
ばんまあうをう作田やううお出たれ。そーて

たしひも〜とまはるん〜。ころちづははらう
し〜しせう^唐たしはるん。あまのむらう
うげと〜とまはるん。あまのむらう
ちうと〜とまはるん。あまのむらう
がけの。市田やしあさしうらう。ちうとをうり
でるるる。〜し〜し〜し。あまのむらう
てちのむらう。あまのむらう。あまのむらう
よよ^唐たしはるん。あまのむらう。あまのむらう

あまのむらう。あまのむらう。あまのむらう
てちのむらう。あまのむらう。あまのむらう
らんあまのむらう。あまのむらう。あまのむらう
あまのむらう。あまのむらう。あまのむらう
と。あまのむらう。あまのむらう。あまのむらう
てあまのむらう。あまのむらう。あまのむらう
それ。あまのむらう。あまのむらう。あまのむらう
あまのむらう。あまのむらう。あまのむらう

ん。ちたよつけとらりや。こゝろとて **友** 十二ど入
 いかりんご **唐** りんよ久 **友** 志ねこと **唐** う
 きしひ 移入 ト **友** 志ねこと **唐** う
 向ひでとらりやとて **唐** りんよ久 **友** 志ねこと
 ちこし戸てきさるせ入 ト **友** 志ねこと **唐** う
唐 りんよ久 **友** 志ねこと **唐** う
 移入。ちこし戸てきさるせ入 ト **友** 志ねこと **唐** う
 ちこし戸てきさるせ入 ト **友** 志ねこと **唐** う

美人つて度 激笑て。国と傾け。味と移く。
 中しとや。深きや。残肩と凋む。送感は乃
 情よへ鬼神も救ぎなく。怒る西施は乃
 唐氏をえざるは餘情あり。さねは近ね
 がこぼるるの海留は乃。抱ゆるのの。新が
 の縁のしとまきとるも。如きあのた。は近ねは乃
 は籠子を落りのの。は近ねは乃。は近ねは乃
 釋が負とまきとるも。如きあのた。は近ねは乃

